

令和7年度 家庭科 授業改善推進プラン

大田区立小池小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・今まで明確に自覚していなかった自身の家庭での役割を知ること、家族への感謝の気持ちをもつとともに自覚的に取り組んでいこうとする姿が見られた。
- ・裁縫及びミシン縫いの学習では、動画を確認しながら繰り返し練習したことで、基礎的・基本的な知識や技能の習得が概ね定着した。
- ・タブレットや実物投影機等のICT機器を活用して作業の手順や方法を示したり、動画で確認したりすることによって、より確実な理解につながった。

(2) 課題

- ・布を用いた製作において、技能の習得に個人差が見られた。自分の学習状況を把握し、学習方法やペースを調整しながら、目標達成に向けて取り組む手立てが必要である。
- ・家族や地域の人々との関わりについて、家族と過ごす時間を増やすための工夫を考えたり、発言したりする児童が多かったが、自分事として実践に移せる児童が少なかった。どのように家庭生活と直接結び付けていくのか方策を考える必要がある。

3 授業改善のポイント（観点別）

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○学んだ知識や身に付けた技能を各家庭や他教科の学習の中で実践できるような課題設定をすることで、知識や技能の定着を図る。 ○布を用いた製作において、基礎的基本的な学習を確実に定着させるため、既習事項を繰り返し確認できるように掲示物を工夫したり、タブレットによる動画や資料を用意したりするなど、ICT 機器を活用する。	○身近な家庭生活や学校生活を振り返る機会を題材の導入時に設定することで、改善すべき点や課題を見い出すことができるようにする。 ○日常生活の中から問題を見い出して課題を設定し、様々な解決方法を考え、計画を立てて実践したり、学習を振り返ったりするなどして課題を解決する力を身に付けられるようにする。	○生活をよりよくしようと、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとする意欲をもたせる。 ○学習の振り返りから次時の実践方法を考えたり、方法や手順を見直したりすることで、PDCA サイクルを意識した生活の改善が有効であることを実感できるようにする。